

2014 AUTOBACS SUPER GT Rd.6  
43rd International SUZUKA 1000km



東 徹次郎  
TOHJIRO AZUMA

マシンにもドライバーにも過酷な真夏の鈴鹿 1000km

苦戦しながらも GT-R 勢ではトップの 11 位完走！！

- ・開催サーキット：鈴鹿サーキット（5.807km）
- ・チーム：apr
- ・マシン：IWASAKI apr GT-R

(NISSAN GT-R NISUMO GT3)

- ・カーナンバー：#30
- ・クラス：GT300
- ・ドライバー：岩崎 祐貴 影山 正美 東 徹次郎



## 公式練習（8月30日）

◆Weather：晴れ ◆Course：ドライ

いよいよ迎えた SUPER GT の舞台。

まだ6月末に行われた合同テスト時のルーキーテストでしかマシンに乗って  
いなかったの、この公式練習でいかにマシンに馴染めるかが自分の勝負でした。  
公式練習は午前中の2時間のみ。

ここで、チームはレースで使っていくタイヤを判断するために3種類あるタイ  
ヤを全て試してまずタイヤを決定し、尚且つタイヤが決まったらマシンのセッ  
トアップを進めると共に3名とも基準タイムを出さないといけないので、本当  
に2時間という時間は一瞬です。

セットアップやタイヤの選択はベテランの影山選手が行います。

この2時間の中で、自分は2周計測と最後に3周計測の2回走り、公式練習の  
セッションを終えました。

しかしながらルーキーテストのときよりタイヤも良い状態でしたので、前回よ  
り乗りやすく乗るたびにいろいろトライして修正を施せていました。

時間も短いので1周をしっかりとめての ATTACK は出来ませんでした、そ  
れでもいろいろ試して良い悪いを確認しながらでもタイムが上がってきていた  
ので、良いイメージで終えることが出来ました。

タイム：2'02.193（クラス 15 位）

自分のタイム：2'04.725



## 公式予選（8月30日）

◆Weather：晴れ ◆Course：ドライ

予選は Q1 を影山選手が担当になり、タイヤはハード（H）、スーパーハード（SH）、ウルTRASーパーハード（USH）と 3 種類ある中の SH でいきました。最初の数周はタイヤの発熱の様子をみながらといった走行で、さあアタック開始という正にその時でした・・・。

コースアウトの車両によって予選が赤旗中断となってしまいます。

うちのタイミングとしては正にタイヤの状態としたら今行こうとしたラップでの赤旗でしたので、本当にタイミングが悪かったです・・・。

再スタート後、残り数分でタイムは更新するもののやはりタイヤのベストのところを使えなかったことも響いて、まさかの 20 位で Q1 敗退となってしまいました。

GT-R は 300 クラスで 6 台いるのですが、実に 4 台の GT-R が Q1 敗退となってしまう、今回の鈴鹿がいかにか GT-R にとっても厳しいレースになるかが反映された予選となりました。

予選結果：2'01.714（クラス 20 位）



## フリー走行（8月31日）

◆Weather：曇り ◆Course：ドライ

日曜朝のフリー走行は30分のみなので、影山選手が最終的なマシンのセットアップをし、ある程度バランスが決まったら岩崎選手が乗って確認といった感じでした。

自分はここでは乗らず、この直後に行われるお客さんを乗せたバスの横を走り抜けていくサーキットサファリの時間でドライブしました。

このときは前日のタイヤより周回しているタイヤでしたので、全体的に滑る量も多く、アンダーオーバーが強めには出ていましたが、前日のタイヤの経験があるので、これはタイヤのライフ的な問題で、バランス自体は悪くないというのがわかるようにはなっていました。

改めて、何事も一回経験しないと判断基準が出来ないということを感じた状況でした。

手応え自体はそんな悪くなかったので、あとはトラブルが出ないことを願って決勝を迎えるだけです。

フリー走行結果：2'03.137（クラス7位）



## 決勝（8月31日）

◆Weather：曇り ◆Course：ドライ

決勝は影山選手からのスタートです。

GT-Rはターボ車故に燃費が悪いので、5ステイントで燃費走行より、6ステイントでペースを上げられる作戦でということになりました。

自分は4ステイント目を担当です。

順調に20番手からスタートを切ったのですが最初のステイントで早くも問題が・・・。

11号車と軽くヒットしたようでアライメントが狂ってしまったのです。

無線ではオーバーステアが強くなってしまったとの情報。

2ステイント目の岩崎選手のときはリアタイヤのみの交換でピットアウトすると、最後はひどいアンダーステアとオーバーステアでどうにもならないということになり、3ステイント目の影山選手からは、今度はフロントにUSHタイヤ、リアにSHタイヤとコンビ組み合わせに変更してコースへ。

すると少しバランスの改善にはなったようです。

自分の交代の際も同じ組み合わせの4本交換で行きましたが、タイヤはNEWではなくて一皮むいてあるものでした。

25周行くのですが、何しろガソリンフル満タンの状態も初めてですしロングでのタイヤの消耗具合も自分には未知数ですので、まずはタイヤを傷めないよう心掛けていました。

しかしながら、予想以上にフル満タンは止まらない、そして重心の高いGT-Rは振り子のような動きになっていて注意しなければなりませんでした。

尚且つ、路面はフリー走行時とは比べ物にならないくらいタイヤカスで汚れていてマシンも手負いでしたので、予想以上にシビアな状況です。

最初の10周がマシン状態と500クラスの集団を行かせるタイミングに慣れていなかったりして一番苦戦を強いられ、重いマシンにブレーキングミスをしてしまい、一度スプーンコーナー1つめで軽くオーバーランするなど本当に悪戦苦闘でした。

途中から一度自分を落ち着かせるように心がけ、トラクションコントロールもちょっと効きを変えてみたりしながらタイムを安定させるよう努めました。ただ、前半の重い時にマシンを暴れさせてしまっていたこともあって、軽くなってきたときに動かしやすくはなったのですが、同時にタイヤもけっこうスライド量が増えてきていて、自分の想定よりもタイムが上がりませんでした・・・。全て勉強になりましたが、フリー走行の自分の出来と違い、悔しいステイント

になってしまいました。

そして予定通り 25 周し、岩崎選手へ交代しました。

ここからの 2 スティントは路面温度も下がってきたのでペースを上げるためにも前後とも一つタイヤを柔らかいものにして、フロントに SH タイヤ、リアに H タイヤの組み合わせにし、岩崎選手、影山選手共に気温も下がったのと合わせてペースが上がって 30 号車のベストタイムも記録し、11 位まで追上げてチェッカーを受けました。

あと一つでポイント獲得なだけに悔しいですが、GT-R 勢ではうちがトップで大きなトラブルも無く終えることが出来ました。

**決勝結果：11 位（ベストタイム：2'03.432）**

**自己ベスト：2'06.843**



## 反省

今回フリー走行までは少ない時間で修正し、確実にタイムを上げていけたのは良かったと思います。

尚且つ、自分でも悪いと感じている部分がデータで見ても同じだったので、そういった意味でも次に向けて明確に取り組むことが出来ていました。

課題に残ったのは決勝ペースです。

重い状態で苦戦しているときにタイヤも消耗させてしまっていたので、結果的にレースペースが悪かったことが最大の課題になります。

ただ、影山選手からは練習の時にフル満タンもロングランも NEW タイヤのどれも経験させてあげられてないし、全て初という悪条件だったのだから、仕方ないことで落ち込む必要も無いし経験だから落胆する必要はないよと言って頂きました。

今後に向けて、その中でももっと細かいアジャストが出来る器用さと自分の引き出しを増やしていけるよう、頑張ります。



## 最後に

今回 SUPER GT 参戦に向け、本当に多くの方々に支えて応援して頂き、チャンスを得られたことに感謝しております。

今年はこの1戦のみですが、やはり今回戦ってみてこのステージで走りたいという気持ちがより強くなりましたし、その為にもより自分を高めていきたいと思えます。

来年はレギュラーとして乗れるよう、しっかりと準備していきたいと思えます。

今回の経験を必ず活かし、全力で努力していきますので、どうぞ今後とも御支援御声援の程、宜しくお願い致します。

2014年9月1日

東 徹次郎

